

工学部だより

2011.3

No.16

(会報「工援」改題)



山形大学工学部創立百周年記念会館

平成22年10月 落成

目 次

山形大学の現状報告 大場工学部長	2	平成21年度一般会計収支決算書及び	
ごあいさつ 山森後援会会長	3	平成22年度一般会計収支予算書	14
学務委員会より	4	平成22年度工学部後援会役員名簿	15
キャリアサービスセンターより	4	平成23年度工学部年間予定表	15
学生相談室より	5	平成22年度卒業・修了者の就職・進学内定先一覧	
学科・理工学研究科だより	6		16
学位記授与式・入学式のお知らせ		平成21年度卒業・修了者の就職状況	17
.....	11	サークル紹介	18
工学部イベント紹介等	12		



山形大学の現状報告

山形大学工学部長 大場 好弘

山形大学工学部後援会会員の皆様には日頃から、山形大学工学部および大学院での教育、研究、学生支援活動に対してご理解とご支援を賜っておりますことを心より御礼申し上げます。

2011年は工学部創立101年目にあたります。現在の工学部並びに大学院理工学研究科の状況をお知らせいたします。

1. 教育面における現状

2010年4月から工学部では教育面での制度を大幅に変更いたしました。学部教育では、バイオ化学工学科およびシステム創成工学科がスタートしました。2学科とも入試倍率も高く、意欲的で優れた新入生が入学してきました。入学後の学生諸君の評判も高く、実績ある卓越した教員陣も揃っており、大いに期待される船出となりました。大学院博士前期課程でも、バイオ化学工学専攻がスタートし、大学院生を迎えて教育研究活動が活発化しております。博士後期課程は再編成して、有機材料工学専攻、バイオ工学専攻、電子情報工学専攻、機械システム工学専攻、ものづくり技術経営学専攻の5専攻体制としました。教育面での取り組みとしては、工学基礎学力の保証制度として3年次修了時点での学力確認制度をスタートしており、社会人基礎力（考え抜く力、前に踏み出す力、チームで働く力）の育成を考えたプログラム再編を行っています。昨年の経済産業省主催の社会人教育グランプリでは準優勝を勝ち取るなど確実に成長を遂げています。卒業生を幸せにする日本一の工学教育が目標です。

2. 研究面における現状

2010年12月に先端有機エレクトロニクス研究センターが完成しました。ここではノーベル賞クラスの卓越研究者として、城戸淳二教授が有機EL研究、時任静士教授とUCLAのヤン教授が有機半導体研究、リンツ大学のサリチフチ教授とロチェスター大学のタン教授が有機太陽電池を研究します。有機エレクトロニクスの分野は2015年の市場予測30兆円（イギリス調査会社予測）であり、

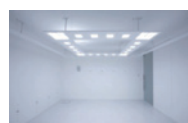
日本政府のグリーンイノベーション政策とも合致しています。更に有機エレクトロニクス分野で製品実用化を实践する最先端イノベーションセンターの構築により、新たな産業集積地の中核施設の設置を目指しております。工学部ではこの他の重点研究としてロボテックスとバイオ化学工学分野で多くの優れた教員陣が世界的なレベルの研究を展開しています。

3. 社会貢献における現状

優れた技術者を社会に送り出すことが最大の社会貢献ですが、それ以外にも技術相談、共同研究、受託研究などを積極的に展開しております。一昨年は米沢市の商店街に「街中サテライト」を開き、社会人教育、技術相談、共同研究等の実績を挙げております。また、荒川区との連携、高等専門学校8校との連携など多くの機関との緊密な連携を通じて、教育研究面での社会貢献実績を挙げております。

100周年を機に更に挑戦し、大きく飛躍する山形大学工学部に更なるご支援をお願いいたします。

有機エレクトロニクスが創る未来



省エネ・超薄型 面発光する照明

曲げられて
さらに軽い iPad



有機EL照明

フレキシブル
有機EL Display

柔らかい・軽い・安い

プリンテッドエレクトロニクスがもたらす

新生活

有機太陽電池

有機トランジスタ

窓ガラス・壁
どこでも創エネ



RFIDタグのついた商品を入れたショッピングカードでゲートを通過するだけで精算が完了する

支払いはいはレジを通るだけ

フレキシブルシート
アンテナ・コイル
メモリチップ
[RFIDタグ]





ごあいさつ

工学部後援会会長 **山 森 茂一郎**

工学部後援会会員の皆様には平素から会の活動にご理解とご協力をいただき、あつく御礼申し上げます。

本会の運営は、山形大学工学部及び大学院理工学研究科に在学の保護者の皆様からの入学時納入された会費に依って行なわれ、教育、研究活動への協力、教育施設への協力、学生生活での福利厚生の実施、課外活動への育成、援助等を中心に、大学の諸事業などへの協力等が目的であります。

その目標達成には、各科、年次の保護者の中から、学内外から選任された有識者の理事、監事で構成する理事会により、協議、実施いたしております。運営の実務担当部門は工学部学生サポートチーム（学生・就職支援担当）であります。事業の実施に当っては、毎月、工学部当局、米沢工業会（工学部同窓会）とも懇談、調整の上、適切な対応を図っております。

本年度の特記事項は、平成22年5月4日(火)、米沢市民会館大ホールで開催された工学部創立100周年記念式典と記念講演会（No.15にて報告）に続いて、百周年記念会館の建設、祝賀会の報告であります。既に会員の皆様にご連絡、ご承知の事と存じますが、平成22年10月9日(土)工学部正門そばに「創立百周年記念会館」が見事に落成、披露の式典が挙行され、会場を別に設けて祝賀会を行いました。

当日は、学内行事として保護者の集い、米沢工業会の年次総会などが催され、米沢名物芋煮昼食など好評の集いとなりました。

記念事業への募金につきましては、会より積立金による協賛のほか保護者の皆様からもご協力下さいました事、深く感謝申し上げます。

新記念会館1Fには、米沢工業会の事務局に併設して後援会の外来受付を置いております。また、セミナー会場もあります。2Fには、軽食等に利用出来るレストランがあります。

平成22年度の主な事業は次の通りであります。

①工学部後援会理事会

（平成22年6月）於：工学部会議室

②各地区保護者懇談会

米沢工業会の各地区支部総会の開催時に年間5～6地区を選び、地区の保護者を併催し、大学から当日出席される各科の教授方から、在学生の勉学、生活などの現況について話し合いの時間を持ち、大変好評でした。

本年度参加開催地区……（平成22年7月～11月）
会場 山形地区、関東地区（東京）、栃木地区、東海地区（名古屋）にて開催

③就職活動として合同企業説明会の開催

進路ガイダンスに役立っており、好就職率の向上に役立っております。

（多くの企業の担当者来会）

④学生による課外の体育、文化サークル活動などへの支援

今年も硬式野球対外試合（宮城、福島地区）を主催しました。伝統の35回「吾妻杯」大会が工学部硬式野球部の活動は高く評価されて居ります。

又、ボランティア活動として冬期、積雪に困った老人宅除雪などの協力に対して市民から感謝されているグループもあります。

⑤工学部創立100周年事業への協力

後援会として来るべき記念事業への協力のためとして平成8年から逐年積立てた資金により総額5,197万円の協力をいたしました。

⑥山形大学校友会活動への協力

山形大学各学部全体の運営の目的で設立されている山形大学校友会に参画。山形大学の新校歌（於：大学事務局）山形大学雪合戦大会（於：工学部）などの事業を行っています。

学務委員会より

平成22年度 学務委員長 古閑 敏夫
(大学院理工学研究科・情報科学分野 教授)

学務委員会は教育カリキュラムの編成、学生の履修指導、成績認定など教育に関する事と、学生生活や課外活動などの大学生活に関する事を担当しています。カリキュラムについては、2010年4月入学生から教養教育の大幅な改定が行われました。教養教育は“基盤教育”と名称変更され、導入教育として「スタートアップセミナー」や「基盤教育科目」が新たに開講されました。「スタートアップセミナー」では、「大学で学ぶということ」、「学びの技法」、「プレゼンテーション」、「グループワーク」、「レポートの書き方」などについての講義や演習を通じて、大学生のみならず社会人としても必須の、主体的に学ぶ姿勢、取得した知識の涵養、問題探求・解決能力を育むことを目標としています。

工学部では学生を支援するさまざまな取り組みを行っています。その一環として、優秀学生表彰制度や学生表彰規程を設けています。優秀学生表彰制度は各学科の卒業生から成績優秀者を選出し、学位記授与式のときに表彰しています。また、大学院に進学する学生の中から最優秀学生3人を表彰し副賞（半期分の授業料相当）を贈呈しています。さらに、サークル活動や課外活動、ボランティア活動などで社会的に高い評価を受けた学生及び学生団体も表彰しています。もちろん、大学全体としてもさまざまな支援制度に取り組んでいます。例えば、山形大学校友会による留学支援制度があります。この制度は国際学会やサマースクール、語学留学などで海外へ出かける場合の旅費を支援するものです。また、学業成績優秀生に与えられるスカラシップ（YU Do Best奨学金制度）があり、2010年度は工学部から2人が採択されました。

例年、米沢女子短期大学と合同で開催されている学園祭（吾妻祭）はサークル活動の発表の場となっています。2010年は第16回目を迎え、10月9日～11日の3日間に渡って開催されました。吾妻祭の主役は何と言ってもサークルです。現在は、学術関係1サークル、文化関係25サークル、体育関係42サークル、合計68サークルが公認されています。各サークルからは数多くの出展やステージイベントが企画されていますが、サークル活動を通して社会的にも貢献し、有意義な学生生活を過ごせるよう期待

しています。しかしながら、吾妻祭は学生だけの祭典ではなく地域の人たちとの連携を意識し、「市民祭」として市民の方々とも協力して一緒に作り上げていくことが重要です。

今年度の吾妻祭のテーマは「Link～僕らが繋ぐこの瞬間～」でした。

「人と人とのLink」すなわち、市民と大学、創立100周年を迎えた工学部の先輩と後輩、そして現在と100年後を繋ぐ絆を強固にしようという気持ちです。今後とも、新築の百周年記念会館を「共に語らう場」として集い、さらに絆を深めましょう。3年前からは卒業生・修了生も参加できるようホームカミングデイが吾妻祭の日程と合わせて開催されていますので、現役の学生諸君のみならず諸先輩方には次の吾妻祭には是非ご参加いただき、工学部の伝統と革新そして未来について、共に語りあおうではありませんか。

保護者の皆様にとっては勉学状況が気になるものと思われかもしれませんが、成績表は前期、後期の年2回（9月、3月）お送りしています。成績表には送付時点までに履修したすべての成績が記載されています。米沢キャンパスへの移行条件や卒業研究着手条件、卒業要件などは教養科目や専門科目の単位数によって規定されています。各学生にはアドバイザー教員が付いていて、成績配付時に学生ひとりひとりの修学状況を見ながら履修アドバイスをしていますが、保護者の皆様も大学生だからと放任なさらずに、どの程度単位を修得しているのか常に気にかけていただき、帰省の折などに話題にされてはいかがでしょうか。成績表に関してご不明な点があれば学生サポートセンター（教育支援・大学院教務担当）までお問い合わせ下さい。

学務委員会では今後も勉学のみならず課外活動や学生支援を積極的に行い、学生が輝くキャンパスライフを送れるよう鋭意努力して参ります。保護者の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。



キャリアサービスセンターより

キャリアサービスセンター 副センター長 志村 勉
(大学院理工学研究科・ものづくり技術経営学分野 教授)



工学部キャリアサービスセンターより、近況をご報告させていただきます。

まず、就職に関してですが、マスコミでも報じられております通り、今春の大学卒業予定者の就職内定状況は非常に厳しい状況にあります。

昨年12月1日時点で、全国の大学の就職内定率は68.8%と公表されておりますが、過去最低の求人倍率だった前回の不況時より更に落ち込み、こ

の十数年間で最も悪い数字となりました。しかも、この数字は全国の主要な大学の平均値であって、実態はさらに悪い数字と考えられます。

また、今年度の就職活動を、より厳しくしている要素の一つに、厳しかった昨年度の就職活動で採用に至らなかった膨大な人数の学生が、戦略的に留年する等で就職浪人し、その学生とも競合する形になっております。

ただ、これまでの不況時と異なるポイントとして、求人倍率は昨年よりは低下したものの1.28倍（昨年度は1.68倍）であり、2000年度の0.99倍に比べれば、まだ余裕のある数字です。では、どうして内定率がこれほどまで厳し

くなるかと言えば、昨今の就職活動におけるWEBの活用によるところが大きいです。

WEBの活用をベースとすると、どうしても大手の求人情報が手に入れやすくなり、また、学生の安定志向とも相まって、大手企業への志向が進んでおります。その結果、従業員が5000人以上の会社の求人倍率は0.47倍と非常に厳しくなり、従業員が300人未満の会社では、逆に4.41倍と求人に苦勞されている状況です。

したがって、会社の規模に固執せず、会社の魅力を丁寧に見分けられさえすれば、学生の将来にとって有望でかつ、企業価値としても魅力的な会社は、まだまだ沢山あり、雇用の可能性もたくさんあることを学生が、もっと認識して戦略を持つことが求められています。

そんな中であって、平成22年度の山形大学工学部ならびに理工学研究科での就職内定状況も非常に厳しくなっており、12月末時点で就職希望者の1割弱が未だ内定をいただけていない状況にあります。そのため学部長をトップとする体制により、各学科の就職担当教員と当センターとが一丸となって学生の就職支援に臨んでいます。

このようなトレンドを冷静に捉え、雇用能力の高い人材の育成と、就職支援体制を充実すべく段階にあると考

えておりますが、一昨年から特に力を入れているのが社会人基礎力の育成です。これは「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」で構成される、社会で働くうえで必要な基礎的能力のこととして、この育成力を競う「社会人基礎力育成グランプリ」（経済産業省主催）で、山形大学工学部は昨年の全国大会で準グランプリ、つまり全国で2位と評価いただきました。

そして今年も北海道・東北予選において15大学中でトップとなり、決勝大会に進みました。決勝大会は3月9日、東京の日経ホールで開催されます。その結果は、本号が発行される頃には出ていると思いますので、工学部のホームページでご確認いただけたら幸いです。

このような厳しい時代だからこそ、社会に出て充実して生きるため、そして幸せになるために大学で学ぶ意味を、学生自身が見出してくれるよう働き掛けていきたいと思っています。また、卒業生を“社会で日本一輝かす大学”を目指し、今後も教育と支援の充実に引き続き努めてまいります。

学生たちの明るい未来のために、皆様方の多大なるご支援ご鞭撻を賜りますよう、宜しく申し上げます。

学生相談室より

平成22年度 学生相談室室長 古閑 敏夫
(大学院理工学研究科・情報科学分野 教授)

学生相談室は保健管理室の建物内にあり、高橋国法准教授（専任カウンセラー）と石本豪先生および新野由理子先生（非常勤カウンセラー）の3名のカウンセラーが学生・教職員の相談にのっています。また、月に二回の頻度で精神科医師が相談室を訪れており、精神医学的診断が必要な場合に対応しています。また、曾根恵子看護師が、カウンセラーと連携して学生・教職員の心身の健康管理をサポートしています。

最近の重要な課題として発達障害があり、その影響が徐々に顕著になってきました。具体的には、以前（2009年6月）実施した米沢キャンパスにおける発達障害学生の実態把握調査のアンケートによると、無視できない数の該当者が在学中であることが判明しました。教職員にとってもより良い教育を提供する上で、発達障害に対する理解が焦眉の急であることより、11月には、成人期の高機能高汎性発達障害で日本屈指の専門家である辻井正次先生（中京大学教授、アスペ・エルデの会代表）を講師にお迎えして「山形大学工学部学生相談室研修会」を開催しました。工学部教職員は44名、外部は19名（本人および家族を含む）と参加者は多数にのぼり、資料を用いたワークショップにより理解を深めました。今後は、米沢キャンパス内のすべての教職員に発達障害に対する理解を深めていただき、発達障害を持つ学生と一般学生の両方に対するよりスムーズな教育を可能とするシステムづくりが望まれます。また、11月に「平成22年度北海道・東北地区メンタルヘルス研究協議会」が小樽で開催され、教員1名がこれに参加して研修・情報交換を行いました。そこでは、メンタル面で問題を抱えた学生への支援のあり方に関して、どの大学も同じ様に努力していることがよく分かりました。

2010年度の学生相談室利用数は4～12月の間で延べ

1,697件ありました。件数自体は例年より若干増加傾向にあります。この中には休学中の学生のケアも含まれています。学年別で見ると4年生や過年度生の相談件数が他学年に比べて極めて多くなっています。修学上のことに加えて、卒業、就職、進学といった進路上の悩み、発達障害学生への対応も関係しているものと思われます。この点、キャリアサービスセンターのキャリアカウンセラーとの連携が有用で、従来よりも強化する必要があるようです。月別の相談件数で見ると、いずれの学年においても前期の5月から7月にかけて件数が増加しています。一人暮らしで食生活や生活リズムが不規則になり、それがもとで無気力になったり、目標を失ったり、集中力が保てなくなってしまうこともないといえませんが、専門分野の授業もこの頃からだんだんと難しくなり、ついて行けず悩んでしまうことも多いようです。一人で悩みを抱え込み過ぎると悪循環に陥り、前に進めなくなり不登校や引きこもりになるケースがあるようです。そうなる前に、できるだけ早めに学生相談室に相談することをお奨めします。

勉学面で困難を感じた場合、たとえば数学・物理などの専門基礎科目や専門分野で分らないときには、大学院生のTA（ティーチング・アシスタント）を紹介しているので、個別に指導を受けることが出来ます。恥ずかしがらずに思い切って活用して欲しいと思います。理解（克服）できれば自信につながり、次への勇気が湧いてきます。

今後も学生の皆さんに実りある大学生活を送っていただくために、相談室スタッフ一同支援に努めて参ります。保護者の皆様には日頃から修学状況や生活態度に関心を持っていただき、心配なことがありましたらぜひ早めにご相談下さい。

学科だより

機能高分子工学科

機能高分子工学科は、高分子科学工学の学問を通じて社会が要求する創造性と問題解決能力を兼ね備え、豊かな人間性に富み、高い技術者倫理観をもつスペシャリストの育成を教育の目標に掲げ、自ら新分野を開拓する能力を持った新機能高分子技術者を育成することを目的としております。その目的を達成するため、近年カリキュラムを全面的に変更しております。まず、有機化学と物理化学を中心とした基礎教育に重点を置き、2年次までは専修コースに関係なく全学生が基礎学力の向上に努めます。3年次からは、高分子合成化学、光・電子材料工学、高分子物性工学のいずれかの専修コースに所属し、それぞれの専門を中心にして学習する仕組みになっています。さらに、3年の後期（6学期）から各研究室に配属させて実施する研究開発プロポーザルにおいて、最先端の研究に触れるだけでなく少人数でのゼミや実験・研究を通じて、より実践的な技術者の育成を目指します。本学科は30名の高分子科学

学科長 教授 森 秀 晴

者が結集した高分子研究の一大拠点として国内外から注目を集めており、こうした一流の研究者たちがそれぞれの専門分野において特色ある教育と研究を行っています。現在、約60%程度の学生が大学院に進学し、最先端の研究の発展に大きく貢献しています。



昨今の経済状況から就職情勢は厳しいものがありますが、修士修了者はほぼ100%に近い就職率を達成しております。また、学部卒業生もそれに近い就職率となっております。今後とも皆様方の暖かいご支援を宜しくお願い申し上げます。



卒業研究発表会

物質化学工学科

工学部後援会の皆様には多方面から大変お世話になっており厚く御礼申し上げます。

本学科は、応用化学および化学工学に関する幅広い専門教育を行い、物質の物性・構造・反応性等の分子レベルでの解析および新物質の創成から、環境に調和した化学システムを構築できる能力を有する化学技術者および研究者の育成をめざしています。本学科の学習教育目標は社会の要請に対応しながら改定を行っており、現在は以下の4つを目標に掲げております。

- ・ Mind (A) 人類の幸福に貢献できる技術者の育成
- ・ Knowledge (B)

工学基礎および専門知識の習得と継続的学習

- ・ Ability (C) データ収集と解析および問題解決能力の育成
- ・ Skill (D)

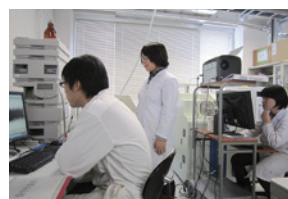
創造力およびコミュニケーション能力の育成

具体的には、物理化学、無機・分析化学、有機化学、化学工学を教育の4本柱とし、しっかりとした基礎固めと、バランスが取れかつ系統立った履修科目となるようにカリキュラム設計しております。また、3年後期には学士としての学力を保障するための学習達成度

学科長 教授 伊藤 和 明

試験を試験的に行っております。

4年次からは研究室に配属され卒業研究を通して最先端の研究を体験するとともに、研究室の仲間や教員との密度の濃い関わり合いを通し学力のみならず人間力の育成も行われます。毎年、約半数の学生が大学院へ進学し、さらに専門能力を高めて行きます。昨今は厳しい経済状況ではありますが、化学は産業の基盤技術であり化学技術者の必要性は現在も変わっておりません。本学科では教職員一丸となって教育、研究を通して優れた人材の育成に取り組んでおります。今後とも後援会の皆様には益々のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



卒業研究の実験風景

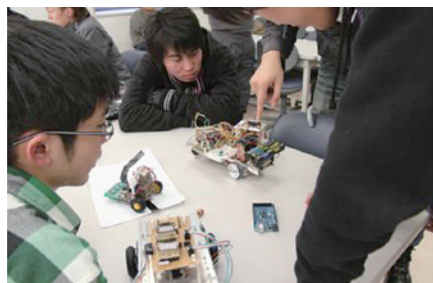


学習達成度試験

機械システム工学科

資源の乏しいわが国の発展のためには、新しい価値の創造や新分野の産業を開拓できる優秀な人材の育成が生命線といわれています。特に日本の基幹産業である「ものづくり」を担う人材を支える中心基盤が、機械システム工学です。

本学科は、ものづくりに関連する実践的・実学的教育および社会人基礎力としてのコミュニケーション能力の養成を学習・教育目標とし、「前向き」で「創造性豊かな」自立した技術者の養成をめざしています。特にJABEE（日本技術者教育認定機構）認定のきめ細かい教育体制のもとで、学生は各自の具体的目標を立て、各学期毎に達成度評価を行いながら着実に学習を進めていきます。学部の4年間は主に機械システム工学の



学生ロボティクス・メカトロニクスコンテスト

基礎をしっかり学んでいきます。約半数が進学する大学院博士前期課程の2年間では、研究の手法を深く学

学科長 教授 小沢田 正

びその分野の最先端を体験し、ほとんどの学生が学会発表も行います。これは、学生にとって大きな自信となるだけでなく、企業からの評価も高く、就職率にも影響します。事情が許されるのであれば是非大学院へ進学されることをお勧めします。



保護者の皆様には、就職状況についてご心配のことと思います。本学科では2011年1月末現在で、大学院は100%、学部はAコース97%、Bコース86%の就職率を達成しております。一方で、学生の志望と企業の求人との間にミスマッチが見られることもありました。これらを改善し、今後も学科と産業界、OBとの連携を密にし、就職力の強化・サポート体制に万全を期して参ります。優れた人材を求める企業側の志向は、経済状況に関わらず根強いものがあります。本学科の使命は教育・研究を通じた優れた人材の育成にあると教職員一同受止めており、今後も一丸となって取組む所存ですので、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

電気電子工学科

本学科では4年間を通して自立した電気電子技術者としての基礎力、社会人基礎力を高めていくためのプログラムを用意しています。コミュニケーション能力を高めるために、グループで接触しあう機会を多く取り入れ、1年生から始まるスタートアップセミナーでは、合宿研修と課題解決プロジェクトを実施し、議論しながら技術者として歩む心構えを意識して貰います。2年次には重点専門基礎科目を配置して電気電子技術者としての基礎作りを徹底して行います。さらに、グループプロジェクトⅠのチームによる発電機の製作と性能コンテスト、3年次のグループプロジェクトⅡのロボットコンテストでは、正解のない課題に取り組むことで目標に向かってグループでアイデアを出しあい、協力しあいながら、人と揉まれる時間を提供しています。

従来開講していた3年次からの電気電子英語Ⅰおよび電気電子英語Ⅱのクラスを平成23年度からは充実させ、それぞれ3クラスおよび2クラスにして、英語能力をさらに伸ばすための試みの他、日本語能力を高めるための授業も実施します。

職業観の醸成を図るために、3年生を対象に電気電

学科長 教授 東山 禎 夫

子工学分野で活躍しているOB技術者による講義を取り入れており、22年度は9名の技術者に加え教員26名が研究に関する話をして大学院進学を含めた進路や仕事の意義を考えるための情報を提供しています。22年からは夏期休暇中の京浜・京葉地区の工場見学も始めました。

学生諸君が自ら人生を生き抜く力を獲得するためには、大学が用意しているプログラムや社会活動に積極的に参加していくことが必要です。今後とも、保護者の皆様の精神的なご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。



情報科学科

山形大学の情報科学科は、「人間にとっての情報」ということを中心にそれぞれの研究室が構成されています。つまり、事物を見聞きし理解しそして誰かに伝えるという人間が行っている情報処理、そしてその能力を外延した情報通信技術が研究されています。共に人々の可能性を拡大し、社会を豊かにすることが最終的な目標です。

これらの研究や教育の取り組みなどを積極的に世の中に情報発信していくために、このたび学科のホームページを新しく作り直しました。学生の皆さんはもちろん、保護者の方々、企業・社会の人々、受験生・卒業生をはじめ、多くの人たちに私たちの情報科学科を知って頂こうと考えております。現在は、見て美しく読んで分かり易い構成とする第一段階を達成したところで、今後有用なコンテンツを順次増やしていく計画です。今本誌を読んでおられる貴兄・貴姉もぜひご覧になってください。なおこの作業には学生の積極的な貢献があることをお伝えしておきます。

年が明けて、現在4年生は卒論のまとめに没頭しています。研究室に所属して自分自身の卒業研究を行う

学科長 教授 野 本 弘 平

というこの日本の高等教育制度は、とても素晴らしいものです。その長所をさらに充実するために設けられた「プログラム演習Ⅳ」も2年目となり、各研究室は3年生の後期から学生を迎えるサイクルが定着し、これまでも増して厚い層の学生で活気に溢れております。

就職戦線は相変わらず厳しい情勢ですが、それに負けない卒業生を社会に送り出せるよう情報科学科は取り組んで参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



応用生命システム工学科

応用生命システム工学とは、生命の持つシステムとしての仕組みや機能に学び、新しい人工的なシステムを創り出す学問分野です。その研究領域は、大きく3つに分類されます。①生命の持つシステムとしての機能を解明する：計算論的神経科学／バイオイノフォマティクス／生体生理学など。②人間の構造や特性を理解して人間を支援するシステムを創り出す：医用生

体計測／生体医工学など。③人間や生物をモデルにして新しいシステムを創り出す：制御工学／ロボティクスなど。具体的な応用としては、再生医療技術、人間支援ロボット、医用画像処理、



学科長 教授 井 上 健 司

携帯型健康管理機器など、人々の暮らしを支援するシステムの開発を目指しています。これらの研究開発に従事するために、生理学、遺伝子情報論、脳情報科学、生体システム論、再生医工学などを学んで生命への理解を深めるととも

に、電気・電子回路、プログラミング、計測工学、制御工学、ロボット工学、画像工学など、システムの設計開発に必要な科目も履修します。幅広い教育カリキュラムを反映して、卒業生の就職先は、電気・機械等の製造業から医療、情報、公務員など様々な業種をカバーしています。学部生の半数以上は大学院に進学し、より深い専門知識の習得と、問題解決能力を伸ばす道に進んでいます。

これからの科学技術は、人間の生活や社会を豊かにするものでなければなりません。本学科では、人間を中心とするシステム、人間を支援するシステムを開発できる技術者の育成を目標に掲げております。後援会の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



バイオ化学工学科

バイオ化学工学科は、工学部設立100周年を迎えた昨年度に新しく設立されました。昨年度は高倍率を勝ち抜いた62名が入学し、小白川キャンパスで教養や基礎専門科目を学んでおります。62名中女子が32名と女子が男子を上回る学科は工学部では初めての学科になります。これまでのところ皆さん順調に単位を取得し、今年度はいよいよ米沢キャンパスに移行し、専門科目や実験を履修することになります。実験室も新たに設置することになり、工事が始まっております。化学の基礎実験や工学実験を始め、生の細胞を扱うバイオ実験を新たな充実した設備・スタッフのもとでスタートする予定です。また、8月のオープンキャンパスに併せて開催しました本学科の市民公開講座にも多くの生徒さんや保護者の方の参加がありました。

これまで、薬学でもない、農学でもないということで、本学科をPRして参りましたが、秋に開催されました工学部合同企業説明会では、本学科の企業向けパンフレットを学科独自で作成し、参加いただいた300社の企業に、本学科のPR活動を実施しました。本学科の就職先は、化学系企業はもちろんのこと、企業独自の分析・計測技術や製造技術をさらに医療分野に応用展開を考えている、もしくは既に進めている企業をターゲット

学科長 教授 佐藤 慎 吾

に考えておりましたが、予想通り、企業様からかなりの手ごたえを得ることができました。これに慢心することなく、現2年生が就職を迎える2年後まで、PRを続けて参る所存ですので、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、保護者の皆様におかれましては、お子様との連絡を密にとっていただき、勉学や大学生活にご質問やご意見がございましたら遠慮なく本学科のアドバイザー教員にご連絡ください。よろしくお願いいたします。



バイオ化学工学科
主催の市民公開講座
の様子



システム創成工学科

フレックスコース・システム創成工学科は昨年4月に新設されました。本学科の特長は、入学後1年程度をかけて自分が進む専門分野を決定し、自分で作成した学習プランに沿って、工学部で夜間と昼間に開講される全科目を自由に履修していくことができる点にあります。その際、工学部はものづくりを使命としていることから、ものづくりの基本となる機械工学の基礎は必ず学ぶこととしています。学科の教育目標のひとつに、「新たな課題に対して挑戦する意欲を持ち、広い視野のもとでそれを解決できるプロフェッショナルとしての能力を養成する」があります。すなわち、機械工学の基礎と各分野の専門知識を習得し、視野が広く、将来はチームのリーダーとなるようなバランスのとれた人材を育成することを目指しています。

昨年、第一期生として55名が入学し、スタートアップセミナーとキャリアパスセミナーでの学習を通して、自分はどの専門分野に進むかを決めてきました。これらのセミナーでは、工学部の全分野を対象とした研究室見学、企業の技術者や経営者を講師としてお招きし

学科長 教授 飯塚 博

た講演、そして、グループディスカッションとプレゼンテーションを多く取り入れてきました。今後はそれぞれの目標に向かって、専門知識の習得をして行きます。

また、本学科ではシステム創成工学科としてのまとまりを大切にしています。2年次ではグループディスカッションを多く取り入れた技術者倫理等のカリキュラムも用意しています。皆で刺激しあいながら、意欲あふれる学生が育ちつつあります。



理工学研究科だより

生体センシング機能工学専攻

本専攻は、平成8年度に学部組織をもたない全国でもユニークな大学院として設置されました。発足以来、工学、理学、医学にまたがる学際領域間のバランスを考慮して、社会に貢献する技術者を養成して参りました。この15年間暖かく見守って頂いた保護者の皆様には厚く御礼申し上げます。

一方、本学工学部では地球環境保全、高齢化社会への対応、価値観の多様化などのこれからの時代の要請に応じることができる工学技術者養成のために、教職員と教育研究設備を有効に活用して社会に貢献することを念頭に、学部・大学院の改組を検討し、今年度から新しい教育組織がスタート致しました。学部では、「バイオ化学工学科」と「システム創成工学科」が新設され、前期課程は9専攻に、後期課程は5専攻に改編され、これに伴

専攻長 教授 佐藤 学

い本専攻の学生募集は停止となりました。教育体制は本専攻に学生が在籍する限り存続し、学生は従来どおりに本専攻の修了となります。また就職などの進路に関しては他の専攻と同様に本学がサポート致しますので、ご安心ください。

保護者の皆様には、ご子息・ご息女の勉学や生活状況及び進路へのご心配は尽きないことと存じます。本専攻としましても、皆様の期待に応え、学生の皆さんが、安心して勉学に励めるよう一層努力して参りますので、今後とも皆様の暖かいご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。



ものづくり技術経営学専攻(MOT)

平成20年に創設された「東北ミライコース」(留学生のみ)の一期生が昨年9月に全員修士課程を修了し、国内企業への就職も100%決まりました。1日ホームステイ等のきめ細かなサポート体制が効を奏し、半数が山形県内又は県内企業関連の会社です。

本年度は、まもなく、仕分けや補助事業としての期限を迎える「東北ミライコース」及び「食品創成コース」の自立化を中心課題として経営戦略をコアメンバーで昼休み、昼食を取りながら、侃々諤々と実施して参りました。

主な課題は学長、学部長方針を基本に「日本一の技術経営人材育成」を目指し、内外情勢と“流行と不易”を勘案し、下記の通りです。

- ①自立のための産官連携強化および戦略の策定
- ②学生/派遣元が満足するカリキュラムと指導内容
- ③外部のみならず内部からでも「見える化」
- ④Global対応のWebを利用した入試、講義
- ⑤留学生増加のための他機関・団体との連携
- ⑥コンソーシアム・卒業生組織・活動の強化
- ⑦情報発信、HPの常時更新、宣伝活動
- ⑧MOTのMission/Vision/コース名称の見直し
- ⑨荒川区MOT開講準備

日本で最高齢で本専攻後期博士課程を卒業された学

専攻長 教授 松田 修

生も昨年の大きな話題でした。この激動の時代こそ、産業界を担う人材の育成が最重要課題であることはいうまでもないことです。教職員一丸となって課題解決に向かって“MOTのMOT”を実行してまいります。一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。



中国、ベトナムからの留学生と学部卒学生と社会人学生の混成チームによる Problem Formulatorの演習状況(生産革新特論Ⅱ)

有機デバイス工学専攻

有機デバイス工学専攻はこの春で5年目を迎えます。この度の大学院改組で学生定員は25名になり、教員も大幅に増え、これまで以上に充実した勉学・研究環境を提供できるようになりました。有機デバイス工学は「有機エレクトロニクス」と呼ばれる有機分子やポリマー材料を用いてフラットパネルディスプレイ、半導体、照明材料、電池など様々な電子デバイスを創製する学問分野であり、省エネルギー・環境対応型、低炭素化技術としても大いに期待されています。山形大学 先進的研究拠点として「有機エレクトロニクスに関する世界的な研究拠点を整備する」という全学あげた取り組みの中で、本専



専攻長 教授 伊藤 浩 志

攻が果たす役割は益々大きくなっています。特に一昨年から「地域卓越研究者戦略的結集プログラム」が始まり、世界各国からノーベル賞級の研究者を招聘するとともに、優秀な若手研究者が結集しております。NHK放送技術研究所から着任された時任 静士 卓越研究教授の研究室では、フレキシブルディスプレイの研究に注力されております。また、本専攻の中核をなす城戸淳二教授の研究室では、世界最高の輝度を誇る発光素子の開発など画期的な成果を次々に出しております。これらの有機エレクトロニクス（有機EL、有機半導体、有機太陽電池）研究を推進するべく、昨年末には、新たな研究施設「先端有機エレクトロニクス研究センター」が完成しました（写真）。

本専攻で学ぶ学生たちのモチベーションも高く、精力的に勉学に励んでいます。このように本専攻では最先端の研究開発を通して、旺盛な好奇心を持ち意欲ある学生の育成を行っております。今後とも皆様方の暖かいご支援を宜しくお願い申し上げます。



お知らせ

◎学位記授与式・祝賀会のご案内

工学部第59回学位記授与式並びに大学院理工学研究科第46回学位記授与式を次のとおり挙行いたしますので、保護者の皆様にはご臨席賜りますようご案内申し上げます。

なお、自家用車でのご来場の際は、米沢市役所駐車場をご利用ください。

【授与式日時】

3月21日(月) 午前10:00 開式
(午前9:00 開場)

【授与式会場】

米沢市営体育館
米沢市金池三丁目1-62
電話 0238-23-0664

学位記授与式終了後は、祝賀会を開催いたしますので、是非ご出席いただきますようお願い申し上げます。

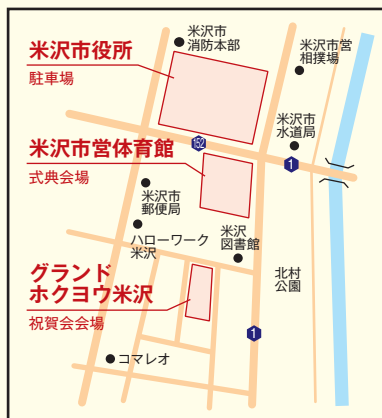
【祝賀会日時】

3月21日(月) 午前11:50~午後1:20
(受付時間 午前11:20~午前11:50)

【祝賀会会場】

グランドホクヨウ米沢
米沢市金池二丁目3-7
電話 0238-22-1238
【会費】 2,000円(お一人様あたり)

アクセス



◎入学式のご案内

工学部及び大学院理工学研究科の来年度の入学式は、次のとおり全学合同で行われます。

【日時】 4月5日(火)

午前10:30 開式

【会場】 山形県体育館（山形市霞城町1-2 霞城公園内）
(JR山形駅西口から徒歩10分)

◎各種相談の窓口

(電話番号は0238-26の後の番号です)

- * 成績や卒業等に関すること…教育支援担当 (3015)
- * 奨学金、授業料免除、学生生活全般に関すること…学生支援担当 (3017)
- * 健康や悩みに関すること…保健管理室 (学生相談室も兼ねています。3034)
- * 入学試験に関すること…入試担当 (3013)
- * 就職に関すること…就職支援担当 (3017・3022)

工学部 イベント 紹介

工学部百周年記念会館落成式

平成22年10月9日(土)、山形大学工学部百周年記念会館落成式典を挙行了しました。当日は、本学部の卒業生・教職員、企業、地元の関係者ら約500人に参加いただきました。

大場好弘工学部長は、式辞の中で「建設された百周年記念会館が卒業生、企業や市民と大学をつなぐ拠点となり誰もが心地よく交流できるようにしていきたい」と述べられました。式辞の後、安部三十郎米沢市長らご来賓の方々からご祝辞を賜りました。式典後は、会館前でテープカットを行い、出席者の皆様には会館内を見学していただきました。

今回建設された記念会館は、鉄筋コンクリート・鉄骨2階建てで延べ床面積894平方メートル。一階はセミナールーム、同窓会組織米沢工業会・工学部後援会の事務室、二階には、全面ガラス張りで眺望のすばらしい迎賓室、一般市民の方も利用可能なカフェなどが入っています。

設計は、ニューヨーク近代美術館・東京国立博物館・法隆寺宝物館・土門拳記念館などの設計で知られる世界的建築家、高宮眞介氏によるものです。高宮眞介氏の設計プランは全国公募で寄せられた70件を超える設計案の中から選出されました。

また同日、祝賀会をグランドホクヨウにて開催し百周年記念会館の完成を祝いました。



「工学部保護者の集い」を開催



平成22年10月9日(土)に「工学部保護者の集い」を開催しました。

工学部で保護者の集いを開催するのは今年が初めてでしたが、当日は約300名という大勢の保護者の方が米沢キャンパスに集まり、学生生活への関心の高さが伺えました。

第1部は、「大学生へのメンタルケアについて」、「大学院進学について」、「山形大学工学部のキャリア教育」など、保護者の方が日頃から興味関心、あるいは不安をお持ちと考えられる点について、4名の教員が分かりやすく解説しました。

その後、第2部では学科ごとに分かれて個別相談会を行い、個別の質問に教員が対応しました。中には熱心に質問を投げかけてくる参加者もあり、大幅に時間を延長したところもありました。

終了後のアンケートでは、「大学生活が楽しく、より良い生活ができるよう、大学と共に子供とよく話をしなければと再認識しました」、「今後も継続して欲しいと思います」などの感想が聞かれました。



「第2回山形大学雪合戦大会」を開催



2月12日（土）、工学部グラウンドにて、第2回山形大学雪合戦大会を開催しました。この大会は、山形大学の各キャンパス間の学生交流の活性化を目的とし昨年度から開催されているもので、学生による実行委員会が大会運営にあたり、準備をすすめてきました。当日は、各キャンパスから申込みのあった17チーム（うち2チームは棄権）で、4リーグでのリーグ戦を行い、各リーグ1位のチームによる決勝トーナメントを行いました。天候が心配されましたが、時折ちらつく雪の中、選手の元気なプレーと多くの観客の声援が、会場の寒さを吹き飛ばしていました。白熱した試合が繰り広げられた結果、工学部チーム“SHINES”が、昨年度優勝チームとの決勝戦を制し、第2回大会の優勝チームとなりました。実行委員は、「昨年以上に盛り上がった大会でした。今後はPRを強化し、キャンパス間の学生交流のみならず、雪国・米沢のイベントとして広く認知されるようにしていきたい。」と早くも来年度に向けた意気込みを語ってくれました。

予告

平成23年度の「保護者懇談会」の開催について

これまで後援会では、米沢工業会（工学部同窓会）の各地区支部総会の開催に合わせ、地区の保護者の方と各学科の教員が、学生の勉学や生活などの現況について話し合う保護者懇談会を開催してきました（3ページに記載

あり）。平成23年度は、進路に関する情報提供等も加え、さらに内容を充実させ、現在、関東地区及び東海地区での開催を検討中です。日時・開催場所等の詳細が決定した場合は、当該地区の保護者の方にご案内いたします。

お知らせ

後援会事務局が工学部創立百周年記念会館内に新設されました

このたび、昨年10月9日に百周年記念会館が落成したことに伴い、同会館1階に後援会事務局が新設されました。

後援会では、学科やサークル活動への資金補助および年間行事への協賛などを行っております。

今後もより一層、お子さま達の学校生活を充実させるべく努力して参りますので、引き続き、みなさまからのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

後援会事務局 小笠原有利子



平成21年度 一般会計収支決算書 及び 平成22年度 一般会計収支予算書

収入の部

(単位：円)

項 目	平成21年度			平成22年度 予算額	摘 要
	予算額	収入済額	増減		
会 費	23,283,000	21,989,500	△ 1,293,500	22,113,000	[会費内訳] (人数は予算額に対して) 昼 間 コ ー ス @26,000円×596人 フレックスコース @26,000円×55人 3 年次編入学 @13,000円×18人 博士前期課程 @13,000円×351人 博士後期課程 @19,500円×20人
雑 収 入	20,000	5,039	△ 14,961	5,000	預金利息
繰 越 金	3,203,314	3,203,314	0	2,207,741	
合 計	26,506,314	25,197,853	△ 1,308,461	24,325,741	

支出の部

項 目	平成21年度			平成22年度 予算額	摘 要
	予算額	支出済額	残 額		
1 学科厚生補導費	1,366,300	1,366,300	0	1,249,200	
学部学生指導補助費	637,600	637,600	0	535,200	入学現員で各学科に配分
学科行事等補助費	728,700	728,700	0	714,000	入学現員で各学科に配分
2 一般厚生補導費	3,541,025	2,779,995	761,030	2,894,000	
国際交流関係補助費	300,000	231,958	68,042	250,000	国際連携サマープログラム等への補助
学務関係補助費	1,500,000	1,134,602	365,398	1,100,000	学生・教務関係補助
保健管理関係補助費	300,000	41,957	258,043	200,000	定期健康診断等補助
理容部運営補助費	500,000	430,453	69,547	450,000	財産使用料、光熱水料
教養教育事業後援費 (H22年度からは、基盤教育事業後援費)	941,025	941,025	0	894,000	昼間コース1年生@1,500円×596人
3 進路対策補助費	200,000	12,474	187,526	150,000	就職ガイダンス
4 学生研究助成費	1,200,000	875,000	325,000	1,050,000	学会発表補助 @5,000円×210人
5 課外活動補助費	700,000	333,474	366,526	500,000	サークル活動への補助
6 一般体育設備等補助費	800,000	230,264	569,736	550,000	体育館清掃、体育用具補助
7 厚生施設等環境整備補助費	1,000,000	610,785	389,215	650,000	学内環境整備補助
8 研修行事等関係補助費	200,000	120,000	80,000	150,000	技術職員研修
9 学部渉外関係補助費	1,200,000	1,491,923	△ 291,923	1,450,000	地区会議等補助
10 学部広報関係補助費	600,000	190,945	409,055	0	高校訪問・高専訪問への補助 (平成22年度から全額、大学支出となったため、今後予算計上しない)
11 大学行事補助費	2,000,000	2,064,239	△ 64,239	2,000,000	学位記授与式、卒業祝賀会 永年勤続祝賀会、重文コンサート補助等
12 運 営 費	3,150,315	2,957,213	193,102	3,530,315	
会 報 費	800,000	195,300	604,700	750,000	会報印刷・郵送
会 議 費	300,000	206,960	93,040	250,000	理事会、会長・副会長会議
通 信 費	100,000	152,830	△ 52,830	150,000	切手、ハガキ
事 務 費	1,000,000	1,046,972	△ 46,972	1,050,000	事務補佐員の給与
旅 費	200,000	0	200,000	150,000	他大学視察
地区別説明会費	600,000	1,244,836	△ 644,836	1,050,000	各地区保護者懇談会
学園都市推進協議会費	100,315	100,315	0	100,315	負担金
雑 費	50,000	10,000	40,000	30,000	
13 積 立 金	1,500,000	1,500,000	0	1,500,000	工学部100周年記念事業積立等
14 施 設 協 力 金	8,955,000	8,457,500	497,500	8,505,000	定期預金へ
15 予 備 費	93,674	0	93,674	147,226	
合 計	26,506,314	22,990,112	3,516,202	24,325,741	

平成22年度 工学部後援会役員名簿

(平成23年2月現在)

		氏 名	所 属 等
会 長		山 森 茂一郎	
副会長		上 村 勘 二	
	院 2	竹 田 信 介	情報科学専攻
	A 4	生 熊 芳 男	機能高分子工学科
	B 4	竹 田 昭	機械システム工学科
	教 員	古 閑 敏 夫	学務委員長 (情報科学分野)
理 事	教 員	神 戸 士 郎	副学務委員長 (物質化学工学分野)
	院 2	竹 田 信 介	情報科学専攻
	院 1	野 澤 悟	機械システム工学専攻
	A 4	生 熊 芳 男	機能高分子工学科
		新 関 明	機械システム工学科
	A 3	中 川 聡	機能高分子工学科
		伊 藤 甚 一	電気電子工学科
	A 2	石 附 義 和	機能高分子工学科
		清 野 清 幸	機械システム工学科
	昼 間 1	楠 田 仁	機械システム工学科
		鈴 木 さだ子	機械システム工学科
	B 4	竹 田 昭	機械システム工学科
	B 3	渡 部 克	物質化学工学科
	B 2	佐 藤 景 一	物質化学工学科
	フレックス 1	佐 藤 孝 則	システム創成工学科
	学 外	結 城 經 治	米沢工業会理事長
		山 崎 洋一郎	米沢工業会常務理事
監 査	A 3	田 中 英 輝	機能高分子工学科
	A 2	加 藤 浩 樹	電気電子工学科
	教 員	川 口 正 剛	前学務委員長 (機能高分子工学分野)
幹 事	事務ユニット長	小 関 俊 宏	
	企 画 調 整 役	綿 貫 藤 雄	
	教育支援・大学院教務担当	布 施 一 明	
	学生・就職支援担当	片 山 政 弘	
		上 野 和 男	
顧 問	工 学 部 長	大 場 好 弘	
	前 会 長	遠 藤 真志男	

平成23年度工学部年間予定表

前 期(平成23年4月1日～9月30日)

春季休業： 4/ 1(金)～4/ 5(火)

入 学 式： 4/ 5(火)

授業期間： 4/ 8(金)～7/21(木)

定期試験： 7/22(金)～8/ 1(月)

補講期間： 8/ 2(火)～8/ 9(火)

夏季休業： 8/ 1(月)～9/30(金)

後 期(平成23年10月1日～平成24年3月31日)

授 業 期 間： 10/ 3(月)～12/22(木)

開学記念日： 10/15(土)

冬 季 休 業： 12/25(日)～ 1/10(火)

授 業 期 間： 1/11(水)～ 1/31(火)・ 2/ 3(金)

定 期 試 験： 2/ 1(水)・ 2/ 2(木)

2/ 6(月)～ 2/10(金)

補 講 期 間： 2/13(月)～ 2/17(金)

春 季 休 業： 2/20(月)～ 3/31(土)

学位記授与式： 3/20(火)

平成22年度 卒業・修了者の就職・進学内定先一覧

1. 工学部

(1月31日現在)

	学科	就職先・進学先	順不同
A コ ス	機能高分子 工学科	渡辺病院、山形大学、(株)ニシカワ、(株)日新化学研究所、(株)ハイテックシステムズ、(株)東北鉄興社、マレーエンジンコンポーネンツジャパン(株)、(株)青森銀行、ソニーケミカル&インフォメーションデバイス(株)、東京エレクトロンAT(株)(2)、三星工業(株)、東日本旅客鉄道(株)、山形カシオ(株)、住化加工紙(株)、伊藤ハムデイリー(株)、テイ・エステック(株)、東山フィルム(株)、フタバ食品(株)、フジパングループ本社(株)、堅川線材(株)、キャノンアネルバ(株)、トヨタテクニカルデバイスロップメント(株)、コニシ(株)、(株)DNP東北、(株)鈴木、(株)かわでん、ALB Aファインテック(株)、公務員(6)(海上自衛隊、自衛隊(2)、山形県警察、富山県警察、多賀城市役所)、山形大学大学院(64)、奈良先端科学技術大学院大学大学院、九州大学大学院	
	物質化学 工学科	サンリット工業(株)、農業協同組合(2)、(株)ニシカワ、エヌシーアイ電子(株)、(株)リード、(株)Jオイルミルズ、大同精密工業(株)、上田石灰製造(株)、日新製薬(株)(4)、新興製作所(株)、(株)高田工業所、アキレス(株)、学習塾 合同会社ありがとう、(株)オリエンタルフーズ、新興プランテック(株)、ボーライト(株)、理研ビタミン(株)、(株)旭洋工業製作所、真丸特殊紙業(株)、学習塾ベントハウス、日立化成テクノサービス(株)、日本ガイシ(株)、ナミックス(株)、黒田化学(株)、テービー工業(株)、高級アルコール工業(株)、新日本テクノカーボン(株)、佐藤繊維(株)、(株)新進、根津鋼材(株)、(株)エースジャパン、アイテル(株)、(株)カネボウ化粧品、三機工業(株)、(株)光陽社、東北クリーン開発(株)、森永乳業(株)、日本原燃(株)、日本郵政グループ、パナソニック電工(株)、山形食品(株)、公務員(5)(地域消防署、山形県警察、宮城県警察(3))、山形大学大学院(50)、東京工業大学大学院、東京農工大学大学院	
	機械システム 工学科	産機エンジニアリング(株)、リオン・ドルコーポレーション(株)、ミツワ電子(株)、(株)ライトボーイ、東日本旅客鉄道(株)(3)、東北発電工業(株)、ヤマザキマザック(株)、(株)ソミック石川、白河オリンパス(株)(2)、ニプロ医工(株)、(株)ニレコ、岩機ダイカスト工業(株)、(株)トーワテクノ、(株)大林組、富士重工業(株)、(株)ヨシムラ、(株)カネボウ化粧品、山形航空電子(株)、(株)ケイテック、(株)山形部品、(株)富士通東北システムズ、(株)高岳製作所、北芝電機(株)、日特エンジニアリング(株)、セレスティカ・ジャパン(株)、ミツミ電機(株)、山形スリーエム(株)、(株)東ハト、コトヒラ工業(株)、(株)ニフコ、マレーエンジンコンポーネンツジャパン(株)、三國機械工業(株)、三基精工(株)、中部資材(株)、(株)日立東日本ソリューションズ、(株)コヤマ、西日本旅客鉄道(株)、日立水戸エンジニアリング(株)、(株)オーテック、日本ゼオン(株)、ホシザキ東北(株)、河西工業(株)、昭和電線ホールディングス(株)、スズキ(株)、ナラサキ産業(株)、カヤバ工業(株)、(株)ダイフク、(株)フルキャストテクノロジー、イハラサイエンス(株)、大橋機産(株)、(株)エイチワン、福島キャノン(株)、関東自動車工業(株)、高砂熱学工業(株)、公務員(2)(国家公務員Ⅱ種、栃木県鹿沼市役所)、山形大学大学院(56)、東北大学大学院(3)、新潟大学大学院	
	電気電子 工学科	(株)高岳製作所、(株)ソニック石川、東芝電機サービス(株)、(株)川口電機製作所、千住金属工業(株)、日本プラスト(株)、東京エレクトロンAT(株)、新潟ダイヤモンド電子(株)、AGCエレクトロニクス(株)、茨城スバル自動車(株)、日立電線(株)、山形銀行(株)、日本電管(株)、東洋精密工業(株)、日本モレックス(株)、(株)ユアテック(2)、(株)エイチワン、(株)アグリアドバンス、(株)高砂製作所、(株)光電製作所、(株)IH Iエアロスペース・エンジニアリング、エムテックスマツムラ(株)、レンゴー(株)、山形カシオ(株)、日立ビジネスソリューション(株)、三菱電機情報ネットワーク(株)、東北電力(株)、西武鉄道(株)、(株)ミントウェーブ、(株)JPハイテック、コマツユーティリティ(株)、(株)VSN、(株)山形チノール、山九(株)、多摩川精機(株)、ボッシュ(株)、(株)丹羽鉄工所、(株)テクノ・アルファ、東日本電気エンジニアリング(株)、(株)日立エレクトリックシステムズ、(株)メイコー、東北発電工業(株)、三和工機(株)、山形大学大学院(37)、東北大学大学院、電気通信大学大学院	
	情報科学科	メイサンソフト(株)、ソフトハウス(株)、沖ソフトウェア(株)、(株)マックスマウス、NECフロンティア(株)、茨城日立情報サービス(株)、ユニバーサルインフォメーションサービス(株)、(株)ビッグ富士、(株)富士通東北システムズ、東北インフォメーションシステムズ(株)、日立メディカルコンピュータ(株)、(株)ケーヒンエレクトロニクステクノロジー、東芝インフォメーションシステムズ(株)、日伸ソフトウェア(株)、(株)日立ハイシステム、(株)渡邊敬、(株)ジャステック(2)、福島テレビ(株)、日立公共システムサービス(株)、(株)データシステム米沢、(株)ヨークベニマル、(株)金沢エンジニアリングシステムズ、梅沢無線電機(株)、(株)奥山メリヤス、(株)インフォテック朝日、エフコム(株)、(株)ジェット、NDソフトウェア(株)、(株)京三製作所、(株)エス・ケー・アイ、テクノマインド(株)、昭和電工(株)、(株)ネオキューブ、(株)NTTドコモ、NECソフトウェア東北(株)、協栄産業(株)、(株)福島情報処理センター、東ソー・クォーツ(株)、(株)インテック、ソフトバンクグループ通信3社、山形大学大学院(37)、東北大学大学院、筑波大学大学院	
	応用生命 システム 工学科	日立エソフトシステムデザイン(株)、(株)シーピーユー、(株)ユードム、イースト(株)、秀英予備校、(株)グフジキン、(株)日立ハイテクノロジー、日本電産(株)、イートス(株)、シェル商事(株)、(株)東邦システムサイエンス、日本シイエムケイ(株)(2)、JBSテクノロジー(株)、全日空モーターサービス(株)、(株)三菱プラントエンジニアリング、(株)栄信、(株)富士通ビー・エス・シー、(株)ステップ、公務員(2)(新潟県内小中養護学校、茨城県警察)、山形大学大学院(27)、東北大学大学院(2)、東京農工大学大学院	
B コ ス	機能高分子 工学科	未定(1)	
	物質化学 工学科	(株)ヤナセ、(株)日本ビグメント、スズキハイテック(株)、テクノ菱和(株)、阿部コンクリート(株)、東海乳業(株)、(株)大気社、ミドリホクヨー(株)、エムシー・ファティコム(株)、NDソフトウェア(株)、岡崎医療(株)、辰星技研(株)、公務員(遠野市消防署)、山形大学大学院(8)、福島大学大学院	
	機械システム 工学科	日特エンジニアリング(株)、明立工業(株)、(株)北日本金型工業、(株)ヤンマー農機東日本、(株)シークス、モビテック(株)、(株)大昌電子、イハラサイエンス(株)、みちのく村山農業協同組合、(株)小森マシナリー、(株)ケーヒン、セイキ工業(株)、山形大学大学院(5)	
	電気電子 工学科	(株)エヌ・ティ・ティ・エムイー、(株)ウエノ、(株)エイチワン、(株)かわでん、大倉電気(株)、(株)日立エレクトリックシステムズ、(株)マルコーエンジニアリング、東芝システムテクノロジー(株)、山形大学大学院(2)、福島大学大学院	
	情報科学科	ソルクルーズ、花巻農業協同組合、(株)UNコンピュータテクノロジー、(株)三岩エンジニアリング、蔵王米菓(株)、東日本旅客鉄道(株)、富士通テレコムネットワークス(株)、ASEジャパン(株)、山形大学大学院	
	応用生命 システム 工学科	ケル(株)、(株)山形テレビ、独立法人自動車事故対策機構、山形大学大学院(4)	

2. 大学院理工学研究科博士前期課程（工学系）

学科	就職先・進学先	順不同
機能高分子 工学専攻	(株)イチキン、サーモ(株)(2)、住化加工紙(株)、KBセーレン(株)、(株)トクシキ、東芝ライテック(株)、(株)潤工社、ユニプレス(株)、笠原工業(株)、(株)コバヤシ、京セラケミカル(株)、(株)マレーフィルターシステムズ、大内新興化学工業(株)、日本ゼオン(株)、日精エー・エス・ビー機械(株)、三菱レイヨン(株)、日本シイエムケイ(株)、田島ルーフィング(株)、日本化薬(株)、山形カシオ(株)、パナソニック電工(株)、米沢浜理薬品工業(株)、中本パックス(株)、(株)スズキ、MGCフィルシート(株)、オイレス工業(株)、日本鋳水(株)、住友ゴム工業(株)(2)、矢崎化工(株)(2)、日東電工業(株)、山形スリーエム(株)、(株)スリオンテック、ニチアス(株)、ムネカタホールディングス(株)、(株)河合楽器製作所、(株)日鉄テクノリサーチ、北陸電気工業(株)、(株)三洋、ルネサス山形セミコンダクタ(株)、(株)トップ、(有)マイティーク業重、清水成型工業(株)、日本紡績(株)、鬼怒川ゴム工業(株)、福島製水(株)、山形大学大学院博士後期、自治医科大学大学院博士後期	

有機デバイス工学専攻	東洋インキ製造㈱、東海ゴム工業㈱、凸版印刷㈱、日立化成工業㈱、田中貴金属工業㈱、トーカドエナ㈱、アニメイトグループ、楠本化成㈱、パナソニック電工㈱、信越ポリマー㈱、電気化学工業㈱、(財)日本化学繊維検査協会、㈱スリオンテック、東京エレクトロンA.T㈱、日立電線㈱、三菱樹脂㈱、リケンテクノ㈱、山形大学大学院博士後期
物質化学工学専攻	大内新興化学工業㈱、㈱日新化学研究所、㈱リード、保土谷化学工業㈱、オート化学工業㈱、㈱エースジャパン、㈱産業分析センター、㈱セイシン企業、㈱旭ダイヤモンド工業、東レフィルム化工㈱、曙ブレーキ㈱、大日精化工業㈱、清水建設㈱、東京めいらく㈱、㈱メイコー、㈱トクシキ、材料化学技術振興財団、NECトーキン㈱(2)、ソニーエナジー・デバイス㈱、興国インテック㈱、ファイマテック㈱、スズキハイテック㈱、吉野石膏㈱、ユシロ化学工業㈱、㈱TRIサイタマ、三菱ガス㈱、千住金属工業㈱、リコー工業㈱、日本圧着端子製造㈱、㈱高木化学研究所、NECディスプレイソリューションズ㈱、㈱タイカ、スズキ㈱、㈱フジキン、東京エレクトロンA.T㈱、チッソ㈱、東京エレクトロン東北㈱、協同油脂㈱、㈱ニクニ、ニプロ医工㈱、コニカミノルタ㈱、古河スカイ㈱、ケイ・アイ化成㈱、ミドリホクヨー㈱、リンテック㈱、東北電力㈱、公務員(自衛隊)、山形大学大学院博士後期
機械システム工学専攻	日野自動車㈱、三機工業㈱、ソントン食品工業㈱、米沢浜理薬品工業㈱、山九㈱、三井造船㈱、東海ゴム工業㈱、日本モレックス㈱、福島キャノン㈱、SMC㈱、古河機械金属㈱、新明和工業㈱、昭和電工㈱喜多方事業所、ナプティスコ㈱、アルプス電気㈱、NECエンジニアリング㈱、コマツユーティリティ㈱、㈱エフ・ジー・アール、UDトラックス㈱、㈱トッパン・コスモ、ケーヒン㈱、椿本チェーン㈱、シチズンマシナリー㈱、沖電気防災㈱、TMC㈱、川崎重工工業㈱、㈱北日本金型工業、ロック技術㈱、スズキ㈱、シャープ新潟電子工業㈱、住商情報システム㈱、アイシン・エイ・ダブリュー㈱、ユニオンツール㈱、東北電力㈱、山形大学大学院博士後期
電気電子工学専攻	東北電力㈱(3)、日本モレックス㈱、矢崎総業㈱、アンリツ㈱、三菱電機エンジニアリング㈱、セイコーエプソン㈱、日本電産シバウラ㈱、日本無線㈱、富士重工工業㈱、日本航空電子工業㈱、山形カシオ㈱、日立造船㈱、㈱きんでん、アーケレイ㈱、東北リコー㈱、トヨタテクニカルディベロップメント㈱、大成建設㈱、アルバックテクノ㈱、シンフォニアテクノロジ㈱、ニプロ㈱、日本精工㈱、日立ハイテクノロジーズ㈱、ミツミ電機㈱、㈱東海理化、㈱IHI、東京電力㈱、MGCフィルシート㈱、新電元工業㈱、武蔵エンジニアリング㈱、日本端子㈱、米沢電線㈱、国際通信企画㈱、㈱共和電業、山形大学大学院博士後期
情報科学専攻	沖セミコンダクター㈱、セコム㈱、NDソフトウェア㈱、㈱アドバンテスト、㈱システムベース、㈱、日立ソフトウェアエンジニアリング、㈱日立東日本ソリューション、ユニアデックス㈱(2)、東北インフォメーションシステムズ㈱(2)、山形放送㈱、通研電気工業㈱、三菱電機情報ネットワーク㈱、日揮情報システム㈱、テックインフォメーションシステムズ㈱、東芝ホームテクノ㈱、㈱エクサ、㈱富士通アドバンストソリューションズ、東北電力㈱、富士通ネットワークソリューションズ㈱、NDD㈱、総合警備保障㈱山形、フコク情報システム㈱、米沢電線㈱、山形大学大学院博士後期
応用生命システム工学専攻	オリンパスソフトウェアテクノロジー㈱、アイ・ティーシー㈱、東北電力㈱、㈱ケーヒン(2)、㈱京三製作所、ヤマザキマザック㈱、㈱日立アドバンストシステムズ、MH I 原子力エンジニアリング㈱、㈱ニコン、㈱マイクロン、フィンガルリンク㈱、㈱富士通ビーエスシー、㈱日立メディコ、ソニーエナジーデバイス㈱、㈱テクノメディカ、日立コンピータ機器㈱、日立SC㈱、㈱NTTファシリティーズ、マイクロトモグラフィ㈱、公務員(2)(東北管区警察局、仙台市役所)
生体センシング機能工学専攻	㈱河野製作所、(有)醗酵味、㈱エースジャパン、東亜合成㈱、日本通信電材㈱、㈱三五、キャノンファインテック㈱、日本アエロジェル㈱、㈱岐阜セラック製造所、マイクロトモグラフィ㈱、NECトーキン㈱、東日本旅客鉄道㈱、㈱エンブラス、本田通信工業㈱、日本テトラパック㈱、亜細亜工業㈱、スズキ㈱、長野日本無線㈱、㈱小森コーポレーション、㈱京セラケミカル、㈱タチエス、ソマル㈱、日本ゼオン㈱、キャノン化成㈱、日東紡績㈱、日本新薬㈱、倉敷紡績㈱、山形大学大学院博士後期(3)
ものづくり技術経営学専攻	有職者7人

3. 大学院理工学研究科博士後期日程（工学系）

専攻	就職先・進学先	専攻	就職先・進学先
物質生産工学専攻	有職者9人	システム情報工学専攻	㈱VSN
有機デバイス工学専攻	未定(2)		

平成21年度 卒業・修了者の就職状況（平成22年3月31日現在）

学科・課程・ 専攻別		Aコース						Bコース						博士前期										博士後期							
		機能高分子工学科	物質化学工学科	機械システム工学科	電気電子工学科	情報科学科	応用生命システム工学科	計	機能高分子工学科	物質化学工学科	機械システム工学科	電気電子工学科	情報科学科	応用生命システム工学科	計	機能高分子工学科専攻	物質化学工学科専攻	機械システム工学科専攻	電気電子工学科専攻	情報科学専攻	応用生命システム工学科専攻	生体センシング機能工学科専攻	ものづくり技術経営学専攻	有機デバイス工学科専攻	計	物質生産工学科専攻	システム情報工学科専攻	生体センシング機能工学科専攻	有機デバイス工学科専攻	ものづくり技術経営学専攻	計
事項																															
概況	卒業生数	(10)116	(37)113	(6)105	(4)89	(4)61	(16)62	(77)546	(3)11	(5)24	(0)30	(0)24	(0)13	(3)6	(11)108	(2)34	(14)57	(0)45	(0)42	(1)31	(4)24	(6)33	(2)12	(2)17	(31)295	(0)2	(2)5	(1)4	(0)1	(0)1	(3)13
	就職希望者数	(10)40	(14)37	(3)36	(0)33	(2)20	(11)28	(40)194	(2)3	(5)11	(0)16	(0)19	(0)4	(1)2	(8)55	(2)31	(12)52	(0)43	(0)40	(1)27	(3)21	(6)33	(0)1	(2)16	(26)264	(0)1	(1)3	(0)0	(0)1	(0)0	(1)5
	自営希望者数	(0)1	(0)1	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)2	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0
	進学者数	(0)70	(23)75	(3)62	(2)52	(1)37	(5)34	(34)330	(1)7	(0)11	(0)10	(0)5	(0)7	(1)3	(2)43	(0)2	(1)3	(0)1	(0)2	(0)1	(1)0	(0)0	(0)2	(0)1	(2)13	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0
	その他	(0)5	(0)0	(0)7	(2)4	(1)4	(0)0	(3)20	(0)1	(0)2	(0)4	(0)0	(0)2	(1)1	(1)10	(0)1	(1)2	(0)1	(0)0	(0)3	(0)2	(0)0	(2)9	(0)0	(3)18	(0)1	(1)2	(1)4	(0)0	(0)1	(2)8
況	就職決定者数	(10)36	(14)38	(3)36	(0)33	(2)18	(11)28	(40)189	(2)3	(4)8	(0)16	(0)19	(0)4	(1)2	(7)52	(2)30	(12)50	(0)43	(0)40	(1)27	(3)21	(4)26	(0)1	(2)16	(24)254	(0)0	(1)2	(0)0	(0)1	(0)0	(1)3
	未就職者数	(0)5	(0)0	(0)0	(0)0	(0)2	(0)7	(0)0	(0)3	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(1)3	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(2)7	(0)0	(0)0	(2)10	(0)1	(0)1	(0)0	(0)0	(0)0	(0)2	
	就職率(%)	87.8	100	100	100	90	100	96.4	100	72.7	100	100	100	100	94.5	96.8	96.2	100	100	100	100	78.8	100	100	96.2	0	66.7	0	100	0	60
求人件数		3,388件																													

[注] () 内の数字は女子を示し内数である。

山形大学 和道流空手部

部長
渡辺 真伸

私達は山形大学和道流空手部です。私達は工学部の武道館で火、水、金曜日の週三回、練習をしています。工学部だけではなく、小白川キャンパスや農学部にも支部があり、各主将を中心として活動しています。医学部にも支部があり、交流を深めております。活動内容は、形や組手を大会に向け、「やるときはやる」を

モットーとして、メリハリのある練習を行っております。さらに、春には花見、夏には合宿、秋には芋煮、冬には寒稽古と行事が盛り沢山です。活動を通して、空手の技術と精神を学び、仲間との思い出を作り、貴重な経験をすることができます。この部活では、上下関係のマナーや言葉使いも学ぶことができ、就活や就職してから必ず役に立っていくと思います。



近年の成績では、三年前の第52回全日本学生空手道選手権大会に男女ともに団体戦に東北地区代表として出場、昨年の第54回全日本学生空手道選手権大会に男子団体戦に東北地区代表として出場があります。他にも個人では、様々な大会で入賞、優勝しています。

ほとんどの部員が空手を大学から始めた初心者なので経験の有無は全く関係ありません。しっかり練習すれば、必ず大学在学中に有段者になり、黒帯を締めることができます。ぜひ私達と一緒に空手部で大学生活を充実したものにしましょう。みなさんの入部を心からお待ちしています。

サークル紹介



皆さんこんにちは。山形大学工学部青春山大ラインです。私たちのサークルは2009年に結成したばかりのサークルであり、鉄道を楽しむことを目的として活動しています。部員も鉄道に興味がある人が多く集まっており、部員同士で親睦を深め合っています。

活動日程は不定期ですが、鉄道に関するさまざまな活動を行っています。普段の活動として、主に南米沢駅でボランティア活動に取り組んでいます。地域の方々や高校生と一緒に駅の

清掃や花壇作りをしています。2009年度には大門交番とJR東日本との連名で表彰を受けました。

また、長期休業中にローカル線を利用して旅をしています。今年度は大宮の鉄道博物館に行きました。さらには、吾妻祭への参加を通して私達の活動の紹介なども行っています。今年度は鉄道写真展を行い工学部生のみならず地域の方にも興味を持っていただけました。そのほか、随時定例会などを行い、部員同士で鉄道に関する情報交換を行っています。このように、鉄道に親しむことのできる工学部唯一のサークルです!!

鉄道に詳しい方や少しでも興味のある方、またボランティアで駅をきれいにしたい方はぜひ私たちと一緒に活動しましょう!!

みなさんの入部をお待ちしております。

山形大学 青春山大ライン

部長
田村 哲士



表紙について

山形大学工学部創立百周年記念会館。鉄筋コンクリート・鉄骨2階建て。全面ガラス張りの2階からは、山形大学工学部の前身の旧米沢高等工業学校本館を臨み、新旧の歴史のシンボルとなっている。設計は、世界的建築家の高宮真介氏。

山形大学工学部 後援会事務局

〒992-8510 米沢市城南四丁目3-16
TEL:(0238)26-3017
FAX:(0238)26-3406
山形大学工学部ホームページ
<http://www.yz.yamagata-u.ac.jp/>